

(11) 体育、保健体育

①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた体育科、保健体育科の目標の在り方

i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 体育科、保健体育科については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、体育と保健との一層の関連や発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図りつつ、指導と評価の充実を進めてきた。
- その中で、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まった¹³⁷こと、体力の低下傾向に歯止めがかかった¹³⁸こと、「する、みる、支える」のスポーツとの多様な関わりの必要性や公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること、子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていることなど、一定の成果がみられる。
- 他方で、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向がみられる¹³⁹こと、子供の体力について、低下傾向には歯止めがかかっているものの、体力水準が高かった昭和60年ごろと比較すると、依然として低い状況がみられる¹⁴⁰ことなどの指摘がある。また、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要との指摘がある。

ii) 課題を踏まえた体育科、保健体育科の目標の在り方

- 体育科、保健体育科では、これらの課題を踏まえ、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学び

¹³⁷ スポーツ庁の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問への「好き」の回答の割合は、平成24年度調査結果は、小学校（第5学年）男子72.7%、同女子53.6%、中学校（第2学年）男子62.6%、同女子43.5%、平成27年度調査結果は、小学校（第5学年）男子74.0%、同女子56.5%、中学校（第2学年）男子64.8%、同女子48.1%となっている。

¹³⁸ 文部科学省の「文部科学省白書2015」では、子供の体力の現状と課題について、新体力テストとなって以降の直近17年間の合計点の推移を見てみると、ほとんどの年代で緩やかな向上傾向となっており、平成26年度の結果は多くの年代で過去最高を記録しているとされている。

¹³⁹ スポーツ庁の「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、例えば、中学校（第2学年）女子において、1週間の総運動時間が420分以上の割合が58.9%である一方、1週間の総運動時間が60分未満の割合は21.0%となっている。

¹⁴⁰ 文部科学省の「文部科学省白書2015」では、子供の体力の現状と課題について、長期的にみると、体力水準が高かった昭和60年頃との比較では、握力及び走、跳、投能力にかかる項目は、依然低い水準となっている（中学校男子の50m走及びハンドボール投げ並びに高校男子の50m走を除く）とされている。

に向かう力・人間性等」を育成することを目標として示す。（別添12 - 1、別添12 - 2を参照）

iii) 体育科、保健体育科における「見方・考え方」

- 体育科、保健体育科においては、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連していることを踏まえ、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成や健康の保持増進のための実践力の育成及び体力の向上について考察することが重要である。
- 「体育の見方・考え方」については、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値¹⁴¹や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。」と整理した。
- 「保健の見方・考え方」については、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。」と整理した。

②具体的な改善事項

i) 教育課程の示し方の改善

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 体育科、保健体育科における学習過程については、これまでも心と体を一体としてとらえ、自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を重視してきた。これらを引き続き重視するとともに、体育科、保健体育科で育成を目指す「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要がある。（別添12 - 3）
- ・体育については、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、運動に対する興味や関心を高め、技能の指導に偏ることなく、「する、みる、支える」に「知る」を加え、三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図る。また、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間と共に課題を解決し、次の学びにつなげる主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図る。

¹⁴¹ 運動やスポーツの価値とは、例えば「公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全」等が挙げられる。

- ・保健については、健康に関心をもち、自他の健康の保持増進や回復を目指して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることができるよう、知識の指導に偏ることなく、三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図る。また、健康課題に関する課題解決的な学習過程や、主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図る。

イ 指導内容の示し方の改善

- 体育科、保健体育科の指導内容については、(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等、(3)学びに向かう力・人間性等の育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って示す。

- ・体育については、「体育の見方・考え方」を働かせて、三つの資質・能力を育成する観点から、運動に関する「知識・技能」、運動課題の発見・解決等のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に学習に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」に対応した目標、内容に改善する。その際、児童生徒の発達の段階を踏まえて、学習したことを実生活や実社会に生かし、豊かなスポーツライフを継続することができるよう、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す必要がある。

- ・保健については、「保健の見方・考え方」を働かせて、三つの資質・能力を育成する観点から、健康に関する「知識・技能」、健康課題の発見・解決のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に健康の保持増進や回復に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」に対応した目標、内容に改善する。その際、健康な生活と疾病の予防、心身の発育・発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、社会生活と健康等の保健の基礎的な内容について、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す必要がある。

ii) 教育内容の改善・充実

(小学校体育)

- 小学校運動領域については、運動の楽しさや喜びを味わうための基礎的・基本的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。また、保健領域との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

- ・全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的ではない児童への指導等の在り方について配慮する。

・オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実については、児童の発達の段階に応じて、ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ、スポーツの意義や価値¹⁴²等に触れることができるよう指導等の在り方について改善を図る。

- 保健領域については、身近な生活における健康・安全についての基礎的・基本的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、自己の健康の保持増進や回復等に関する内容を明確化するとともに、「技能」に関連して、心の健康、けがの防止の内容の改善を図る。また、運動領域との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

(中学校保健体育)

- 中学校体育分野については、生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。また、保健分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

・各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう配慮する。

・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識し、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動¹⁴³の内容等について改善を図る。

・スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値¹⁴⁴等の内容等について改善を図る。

¹⁴² スポーツ基本法第二条第二項では、「スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが、体力を向上させ、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成に大きな影響を及ぼすものであり、国民の生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものである」とされ、下略とされている。

¹⁴³ 現在、中学校の体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成され、第1学年及び第2学年では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにすることを、第3学年では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにすることをねらいとしている。

¹⁴⁴ 第1部5. (5) 参照。

- ・グローバル化する社会の中で、我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道¹⁴⁵の考え方に触れることができるよう、内容等について一層の改善を図る。

- 保健分野については、個人生活における健康・安全についての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容等を充実する。また、個人生活における健康課題を解決することを重視する観点から、健康な生活と疾病の予防の内容を学年ごとに配当するとともに、体育分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

(高等学校保健体育)

- 高等学校科目体育については、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。また、科目保健との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

- ・各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう配慮する。
- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付け、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動¹⁴⁶の内容等について改善を図る。
- ・スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値及びドーピング等の内容等について改善を図る。

- 科目保健については、個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。その際、少子高齢化や疾病構造の変化による現

¹⁴⁵ 日本武道協議会加盟団体実施種目・・・柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道

¹⁴⁶ 現在、高等学校の体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにすることをねらいとしている。

代的な健康課題¹⁴⁷の解決に関わる内容や、ライフステージにおける健康の保持増進や回復に関わる内容及び一次予防のみならず、二次予防や三次予防¹⁴⁸に関する内容を改善するとともに、人々の健康を支える環境づくりに関する内容の充実を図る。また、科目体育と一層の関連を図り、心身の健康の保持増進や回復とスポーツとの関連等の内容等について改善を図る。

iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

○ 体育科、保健体育科における資質・能力を育成するための学びの過程は、運動や健康についての課題や児童生徒の実態等により様々であるが、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学習・指導の改善・充実の視点に基づき、以下のとおり整理することができる。なお、これら三つの学びの過程をそれぞれ独立して取り上げるのではなく、相互に関連を図り、体育科、保健体育科で求められる学びを一層充実することが重要である。また、これら三つの学びの過程は、順序性や階層性を示すものでないことに留意することが大切である。

- ・「主体的な学び」は、運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程と捉えられる。各種の運動の特性や魅力に触れたり、自他の健康の保持増進や回復を目指したりするための主体的な学習を重視するものである。
- ・「対話的な学び」は、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程と捉えられる。自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視するものである。
- ・「深い学び」は、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程ととらえられる。児童生徒の発達の段階に応じて、これらの深い学びの過程を繰り返すことにより、体育科、保健体育科の「見方・考え方」を育てることを重視するものである。

¹⁴⁷ 死因として最多はがんで、第2位が心疾患であり、これらの生活習慣病は、死因の約6割、国民医療費の約3割を占めている。また、20代の死因の半数は自殺で、その動機や原因の約4割が仕事関連の悩みとうつ病によるものとしてきされている。少子高齢化については、若い世代の出産・子育てや高齢化に伴う健康寿命の延伸などの課題が指摘されている。

¹⁴⁸ 疾病予防の考え方として、一次予防（適正な食事や運動不足の解消、禁煙、ストレスコントロールといった健康的な生活習慣づくりの取組や予防接種、環境改善、事故の防止など）、二次予防（検診等による病気の早期発見と早期治療など）、三次予防（適切な治療により病気や障害の進行を防ぐことなど）がある。

イ 教材や教育環境の充実

- 「主体的・対話的で深い学び」の過程を踏まえて、体育については、学習したことを実生活や実社会で生かし、運動やスポーツの習慣化につなげたり、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択したりすることができるよう、教材の工夫やICTの活用を図ることが重要である。保健については、同様に、健康に関する課題解決的な学びや児童生徒の多様なニーズ、興味や関心を踏まえ、教科書を含めた教材を工夫することが重要である。また、保健の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の育成を目指してICTの活用を図ることが重要である。
- 体育科、保健体育科の改善に向けて、教員養成、教員研修、教材整備等の環境を整えていくことも必要である。その際、体育については、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するとともに、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるようにする観点から、条件整備等を行う必要がある。また、保健については、少子高齢化や疾病構造の変化等の社会環境に対応し、子供たちが生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応できるようにする観点から、条件整備等を行う必要がある。

体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理（案）〈高等学校〉

別添12-1

高等学校 保健体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
科目体育	<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方の知識 ・体力の高め方の知識 ・課題解決の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 ・競技会、発表会の仕方や審判の方法などの知識 <p>スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の知識</p> <p>各種の運動が有する特性や魅力及び目的に応じた技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を踏まえて、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする 	<p>自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の挑戦する運動課題を設定する力 ・技術的な課題や有効な練習方法について指摘する力 ・運動実践の場面で、課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直す力 ・運動実践の場面で、自己や仲間の危険を予測し回避するための活動の仕方を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付ける力 ・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむためのスポーツとの多様な関わり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示したり他者に配慮したりして、相手に伝えたり表現したりする力 	<p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、主体的に取り組む態度 ・運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正に取り組み、仲間と主体的にかかわり協力する、役割に責任をもって取り組む、意思決定などに参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する ・スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができる態度
科目保健	<p>個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生じた健康課題の解決に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識(一次予防だけでなく二次予防、三次予防も含む) ・ライフステージにおける健康を踏まえた生涯を通じる健康の知識 ・社会生活と健康に関する知識 ・社会資源の活用、応急手当に関する技能 	<p>健康課題の解決を目指して、情報を批判的に捉えたり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・行動選択する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に関わる健康課題を発見する力 ・社会生活に関わる健康情報を収集、分析する力 ・社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える力 ・解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指す ・適切に意思決定・行動選択する力 ・健康な社会づくりに必要な知識や技能、健康の考えや解決策を社会へ伝える力 	<p>健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に関わる健康づくりに関心をもつ ・社会生活において健康・安全を優先する ・自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに参画する

体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理（案）〈中学校〉

中学校 保健体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 など <p>スポーツに関する科学的知識や文 化的意義等の基礎的な知識</p> <p>各種の運動が有する特性や魅力に 応じた基本的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする 	<p>自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力 ・運動実践の場面で、自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力 ・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成する ための適切なかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための、スポーツとの多様な関わり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝えたり表現したりする力 など 	<p>生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わい、自主的に学習活動に取り組む態度 ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を見守る大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する ・スポーツとの多様な関わり方を場面に 応じて選択し、実践することができ る態度 など 	
保健分野	<p>個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能 	<p>健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康課題を発見する力 ・健康情報を収集し、批判的に吟味する力 ・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力 ・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自己の生活に生かす力 ・自己の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力 	<p>健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康に関心をもち ・自己の健康に関する取組のよさを認める ・自己の健康の保持増進や回復のために協力して活動する ・自己の健康の保持増進に主体的に取り組む

体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理（案）〈小学校〉

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学校 体育	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・ 各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・ 各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・ 自己の能力に適した課題に気付く力 ・ 自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・ 思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・ 進んで学習活動に取り組む ・ 約束を守り、公正に行動する ・ 友達と協力して活動する ・ 自分の役割を果たそうとする ・ 友達の考えや取組を認める ・ 安全に気を配る
保健領域	身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能 ・ 健康な生活、発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防に関する基礎的な知識 ・ 不安や悩みの対処やけがの手当に関する基礎的な技能	身近な健康課題に気付き、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力 ・ 身近な健康課題に気付く力 ・ 健康課題に関する情報を集める力 ・ 健康課題の解決方法を予想し考える力 ・ 学んだことを自己の生活に生かす力 ・ 学んだことや健康に関する自分の考えを伝える力	健康の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度 ・ 自己の健康に関心をもち ・ 自己の健康の保持増進のために協力して活動する ・ 自他の心身の発育・発達などを肯定的に捉える

体育科、保健体育科における教育のイメージ（案）

発達の段階

卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようになる

多くの領域の学習を経験する

各種の運動の基礎を培う

指定校事業での検証、全国体力・運動能力、運動習慣等調査等



改善のためのPDCAサイクル



改善のためのPDCAサイクル



改善のためのPDCAサイクル



【高等学校】

◎ **体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的・計画的な解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。**

- ① 各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び社会生活における健康についての理解を図るとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他や社会の課題に気付く、合理的・計画的な解決に向けて思考・判断し、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって運動への多様な関わり方に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

【中学校】

◎ **体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的な解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。**

- ① 各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び個人生活における健康についての理解を図るとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他の課題に気付く、合理的な解決に向けて思考・判断し、目的に応じて他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【小学校】

◎ **体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。**

- ① 各種の運動の特性や魅力に応じた行い方及び身近な生活における健康についての理解を図るとともに、基本的な動きや基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自己の課題に気付く、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養う。
- ③ 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【幼児教育】

（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるもの記述）

- 健康な心と体を育て、幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出し続けるようになる。
- してよいかや悪いかが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。
- 身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取りたり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しみようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
- みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。

個人及び社会生活の健康についてより総合的に理解する

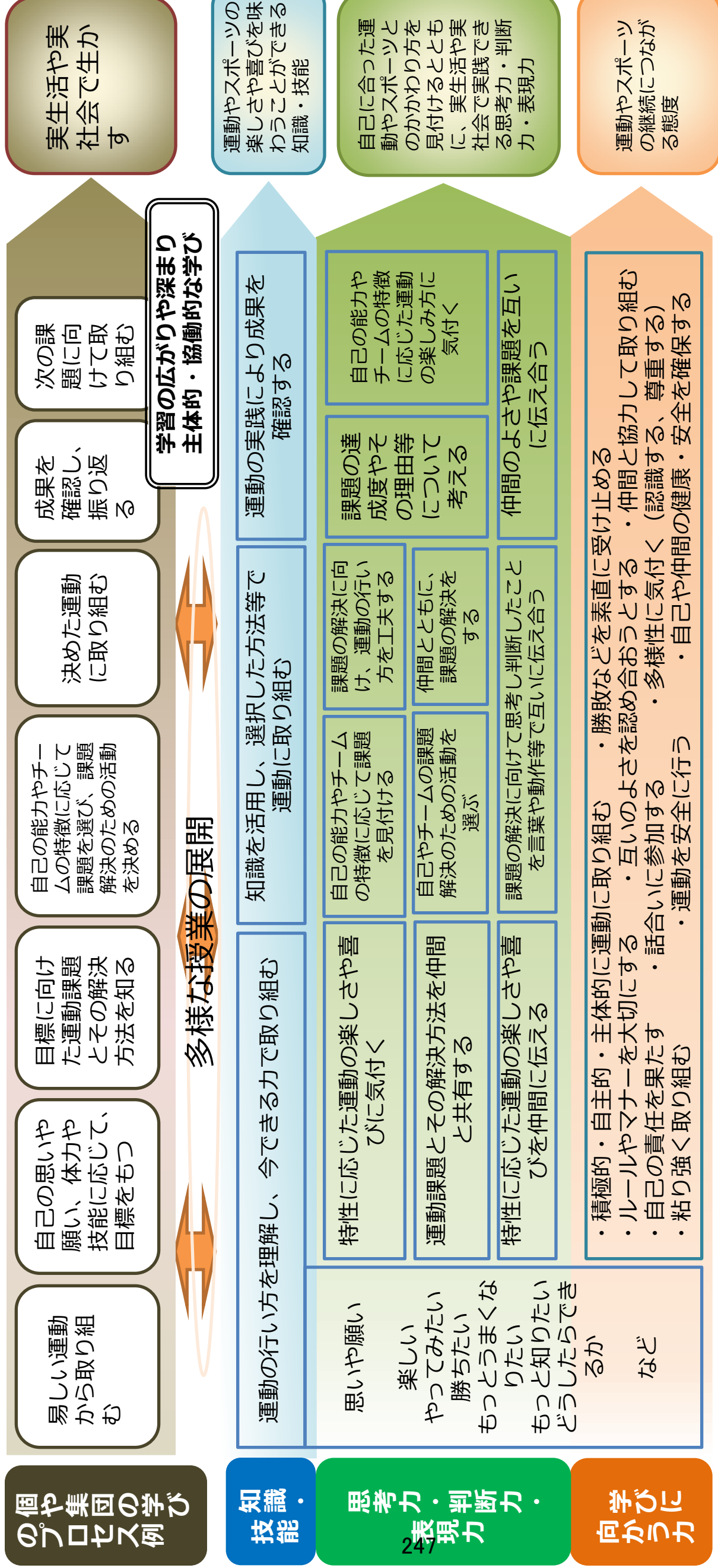
個人の健康についてより科学的に理解する

身近な生活の健康について理解する

体育科・保健体育科（運動に関する領域）における学習過程のイメージ（案）

別添12-3

体育の見方・考え方：運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること



指導上配慮が必要な内容や個々の学びのプロセスに対応した個別指導

知識・技能

思考・判断・表現

主体的態度

能力等の育成と主な評価の例

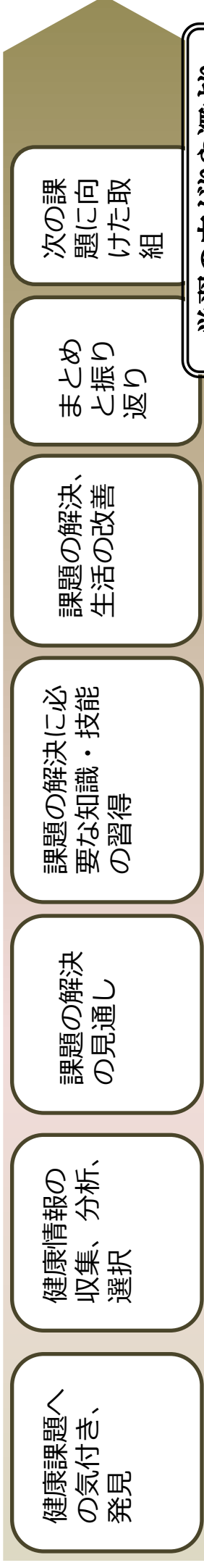
- 発達段階に即して、運動の特性に応じた行いや一般原則等の知識及びスポーツに関する科学的知識を理解し、各種の運動が有する特性や魅力に応じた動きや技能を身に付けている実現状況を評価する。
- 課題に応じて活動を選んだり工夫したり、課題に応じた運動の取り組み方を工夫したり、伝える相手や状況に応じてわかりやすく表現することなどの実現状況を評価する。
- 主体的に運動に取り組もうとするとともに、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する態度の実現状況を評価する。

※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、これに限定されるものではない。また、必ずしも順序性を示したものでなく、一方向の流れではない。

体育科・保健体育科（保健）における学習過程のイメージ（案）

保健の見方・考え方：個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること

個や集団の学びのプロセス例



実生活や実社会で生かす

生涯を通じて健康の保持増進することができる知識・技能

実生活や実社会で健康を保持増進できる思考力・判断力・表現力

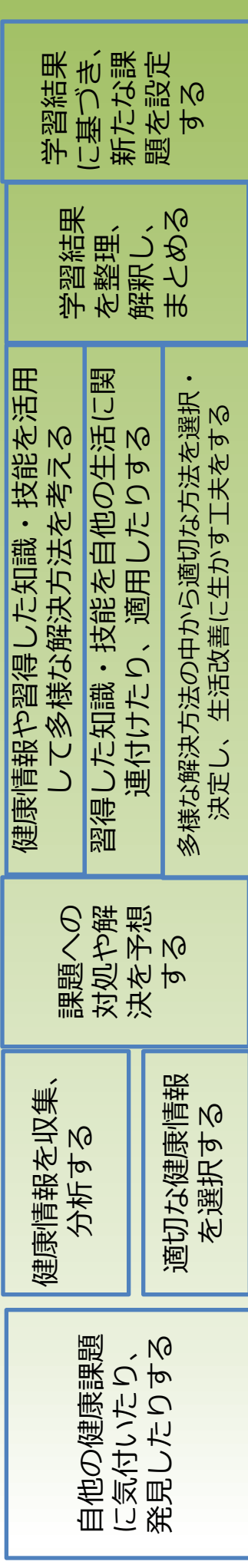
健康の保持増進のための実践力を発揮し、明るく豊かな生活を営む態度

多様な授業の展開

これまでで習得した知識・技能を確認するとともに、課題の発見、健康情報の収集、解決の見通しをもつために必要な知識・技能を習得する

課題解決に必要な知識・技能を習得したり、課題の解決を通してそれらを深めたりする

単元で習得した知識・技能の成果を確認する



健康課題や収集した健康情報などを仲間と共有する

課題の解決に向けて思考したり、判断したりしたことについて、話し合ったり、自分の考えを伝え合ったりする

健康に関する考えや提案を必要な対象に効果的に伝える

- ・ 自他の健康に関心をもつ
- ・ 自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する
- ・ 自他の健康に関する取組のよさを認める
- ・ 社会生活で健康・安全を優先し、健康な社会づくりに参画する

指導上配慮が必要な内容や個々の学びのプロセスに対応した個別指導

- ・ 健康の概念的な知識の習得や状況に応じて活用できる技能の獲得に向かうなどの学びの過程から、健康・安全について、課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている実現状況を評価する。
- ・ 健康に関する課題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程から、健康課題を発見し、その解決を目指して考え、判断し、それらを表現している実現状況を評価する。
- ・ 学びの見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次の課題に向けた取り組みにつなげるなどの主体的な学びの過程から、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしている実現状況を評価する。

知識・技能
思考・判断・表現
主体的態度

能力等の育成と主な評価の例

※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では学びのプロセスの一部を扱うこともある。

(12) 外国語

①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた外国語活動、外国語科の目標の在り方

i) 現行学習指導要領の成果と課題

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力¹⁴⁹は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。
- 現行の学習指導要領は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通じて充実が図られてきた。
- 一方で、指導改善による成果が認められるものの、児童生徒の学習意欲に関わる課題や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。
- 中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することなどに課題がある。

ii) 課題を踏まえた外国語活動、外国語科の目標の在り方

- これらの課題を踏まえ、特に、他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を、外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、更に外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を育成することを目標として改善を図る。（別添13-1を参照）

¹⁴⁹ コミュニケーション能力については様々な考え方があるが、文部科学省の有識者会議の報告（コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」平成23年8月29日）においては「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義している。本ワーキンググループにおける議論においては、こうした定義も踏まえ、外国語教育における特質に配慮しながら、外国語によるコミュニケーション能力について、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる能力として整理している。

併せて、後述 iii) の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、外国語教育において求められている資質・能力を育むために必要な教科等目標を設定する。(別添 13 - 2を参照)

(育成を目指す資質・能力と小・中・高等学校を通じた指標形式の目標の設定)

- 前述のように、外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で、前述のような課題を踏まえ、①各学校段階の学びを接続させるとともに、②「外国語を使って何が出来るようになるか」を明確にするという観点から目標の改善・充実を図る。
- 外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。
- このため、それらの育成を目指す力について、前述のような課題を踏まえつつ、国際的な基準である C E F R¹⁵⁰などを参考に、外国語学習の特性を踏まえて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして段階的に実現する指標形式の目標を設定する。
- C E F Rにおいては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能ではなく、外国語の学習等のための「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やりとり: interaction)」、「話すこと(発表: production)」、「書くこと」という五つの領域において、単に、知識・技能だけが示されているのではなく、知識・技能を活用して思考したり表現したりする言語能力が示されている¹⁵¹。このことを踏まえ、こ

¹⁵⁰ 国際的な基準: CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表した。国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するに当たって用いられたりするなどしている。CEFRは、学習者、教授する者、評価者が共有することによって、外国語の熟達度を同一の基準で判断しながら「学び、教え、評価できるよう」開発されたもの。「話すこと」のやりとり(interaction)は、少なくとも2人以上の個人が言葉のやりとりをする。その際、産出的活動と受容的活動が交互に行われ、口頭のコミュニケーションの場合は同時に行われることもあり、対話者が同時に話し、聞くだけでなく、聞き手は話し手の話を先回りして予測し、その間に答えを準備しているものであるなど、やりとりは言語使用と言語学習の中でも大きな重要性が認められ、コミュニケーションにおける中枢的役割を果たしているとされている。

¹⁵¹ ①CEFRの文書において人間が言語を用いて行うタスク(人間の行為全般をCEFRではタスクと言う。)はreception(受容)、interaction(やりとり)、production(産出)の3領域に分かれており、それらが総合的に「コミュニケーション活動(communicative activities)」と呼ばれている(CEFRオリジナル文書2.1.3)。②自己評価表(self-assessment grid)の形式で、Listening、Reading、Spoken interaction、Spoken production、Writingの五つのタスクは、コミュニケーション能力の社会言語的側面、語用論的側面を含んだ多面的なものであり、それらの複雑な横軸の側面についてはCEFR文書Chapter 4、5で解説されており、多層的な「領域」と考えられており、③複雑な横軸の側面として具体的にCEFRのCAN-DO形式の目標で示されている内容はcommunicative competence(コミュニケーション

れまで「4技能」と称されることが多かった、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」については、国の指標形式の目標において五つの領域として示すこととする。

- 国が定める指標形式の目標については、外国語で聞いたり読んだりして得た知識や情報、考えなどを的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることで育成される「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」について、外国語教育の目標に沿って、高等学校卒業時において求められる資質・能力を明確にした上で設定する。このため、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり：interaction）」、「話すこと（発表 production）」、「書くこと」の五つの領域ごとに小学校中学年段階から児童生徒の発達の段階に応じて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を設定するとともに、これらの複数を組み合わせて効果的に活用する統合的な言語活動を一層重視した目標とする。（別添13-3を参照）
- また、育成を目指す資質・能力の三つの柱の「学びに向かう力・人間性等」は、児童生徒が言語活動に主体的に取り組むことが外国語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で不可欠であるため、極めて重要な観点である。「知識・技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、児童生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上するため、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」は不可分に結び付いている。児童生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて児童生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の高まりを目指した指導をすることが大切である。
- 各学校においては、国が学習指導要領に定める外国語の指標形式の目標を踏まえ、更に具体的に各校の学習到達目標を設定する。その際、個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、「知識・技能」を実際のコミュニケーションにおいて活用し、外国語で情報や自分の考えなどを表現し伝え合うことで、外国語教育の資質・能力の育成が図られるよう、学習内容等を設定することが求められる。

iii) 外国語活動、外国語科における「見方・考え方」

- 他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、社会や世界とのかかわりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え、情報や自分の考えなどを外国語で話したり書いたり

ン能力)を示しており、それらは、linguistic competence(従来の語彙・文法などの知識と技能)、sociolinguistic competence (社会的文脈などを考慮してことばを使える力)、pragmatic competence(場面・状況・相手などを考慮してことばを使える力)と定義されている。④CEFRで目指している姿は「自律的社会的成員 (autonomous social agent)」であり、自ら学習を管理できる「生きる力」を体現する社会的成員としての個人であり、この点からも学習指導要領の目標とCEFRは非常に近い目標が掲げられていると考えられている。

して表現して伝え合うなどの一連の学習過程を経て、子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」が成長することを重視し、整理することが重要である。

- 外国語教育において育成を目指す資質・能力を踏まえ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」と整理する。

②具体的な改善事項

i) 教育課程の示し方の改善

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学習過程に改善するため、育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けられるように改善・充実を図る必要がある。
- 外国語教育における学習過程では、児童生徒が、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていくことが大切になる。

イ 指導内容の示し方の改善

- 外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校を通じた、指標形式の目標（前述の五つの領域）、指導内容等について体系的に構造を整理する。この構造の中で、外国語教育において「主体的・対話的で深い学び」を推進する学習過程を繰り返し経るような改善・充実が図られる必要がある。

ii) 教育内容の改善・充実

ア 小学校の外国語教育における改善・充実

- これまでの成果と課題を踏まえて、中学年から「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に扱う学習を行うことが求められる。その際、これまでの課題に対応するため、新たに①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの

特徴への気付き、③語順の違いなど文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導を教科として行うために必要な時間を確保することが必要である¹⁵²（別添13-4）。

- このような方向性を目指し、小学校高学年において、「聞くこと」、「話すこと」の活動に加え、「読むこと」、「書くこと」を含めた言語活動を展開し、定着を図り、教科として系統的な指導を行うためには、年間70単位時間程度の時数が必要である。また、中学年における外国語活動については、従来の外国語活動と同様に年間35単位時間程度の時数が必要である¹⁵³。

イ 中学校の外国語教育における改善・充実

- 小学校で学んだ語彙や表現などの学習内容については、中学校の言語活動で、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めることが必要である。
- また、中学校では、生徒にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した上で、学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させるとともに、高校との接続の観点から、外国語で授業を行うことを基本とするなど指導の改善を図る。
- 併せて、中学校では新たに「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を測定する全国学力・学習状況調査の実施¹⁵⁴により、具体的な指導改善につながるPDCAサイクルを確立することが重要である。

ウ 高等学校における科目構成の見直し

- これまでの課題、高校生の多様化に対応するため、高等学校卒業段階で求められる「外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる力」（必修科目でCEFRのA2相当、選択科目で同B1相当を想定）を育成するため「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を総合的に扱う科目として「英語コミュニケーション（仮称）」を設定する。
- 中学校で学んだことを実際のコミュニケーションにおいて運用する力を十分に身に付けていないといった課題のある生徒も含めた高校生の多様性を踏まえ、外国語で授業

¹⁵² 外国語教育の改善・充実については、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」においても、文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」（平成26年9月26日）においてまとめられた提言を踏まえつつ検討することとされている。提言においては、「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」等の先行した取組の検証を踏まえた外国語教育の課題や方向性について詳細がまとめられている。

¹⁵³ これらの効果的な教育課程の編成の在り方については、第2部 1.（2）の「④ 各学校における弾力的な時間割編成」を参照。

¹⁵⁴ 文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」のもとに設置された「英語調査の検討に関するワーキンググループ」にて審議の上、同専門家会議において、平成28年6月には「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する中間まとめ」がまとめられている。

を行うことを基本とすることが可能な科目を見直す必要がある。このため、必履修科目（特に学習の初期段階）において、中学校の学び直しの要素を入れることとする。

- 外国語科の授業において言語活動の比重が低い現状を踏まえ、学習指導要領に沿って設定された指標形式の目標を実現するため、いかに言語活動を改善・充実していくかといった観点から科目の見直しを行う。このため、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の総合型の科目（必履修科目を含む）を核とし、発信能力の育成を更に強化するための科目として「論理・表現（仮称）」（「発表、討論・議論、交渉」などにおいて、聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりする統合型の言語活動が中心）を設定する。併せて、留学や進学などの目的に応じて高い英語力を目指す高校生もいるといった多様性を踏まえ、専門教科の科目構成を見直すとともに、学校設定科目などで対応できるようにする。（別添13-5を参照）
- また、高等学校においては、生徒や学校の多様なニーズを踏まえ、スーパーグローバルハイスクール等の成果を参考にしつつ、グローバルな視点で他教科等での学習内容等と関連付けて、外国語を用いて課題解決を図る力などを育成するための言語活動の改善・充実を図る必要がある。

（英語以外の外国語教育の改善・充実）

- グローバル化が進展する中、日本の子供たちや若者に多様な外国語を学ぶ機会を提供することは、言語やその背景にある文化の多様性を維持・促進し、他の国や文化の尊重につながるため、英語以外の外国語教育の必要性を更に明確にするとともに、学習指導要領の改訂に向けて、外国語教育における指標形式の目標設定を踏まえたカリキュラム研究、研修、教材開発などの取組について支援することが必要である。

iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。
- 外国語教育においては、質の高い学びに向けて、学びの過程を、相互に関連を図りつつ、改善・充実を図ることが必要である。そのような過程で外国語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを児童生徒が認識し、自信を持つことができるような学習活動を設けることが重要である。
- ① 「主体的な学び」の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会・世界と関わり、生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要

である。このため、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

②「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。

③「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりする中で、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。

イ 教材や教育環境の充実

(教材の在り方)

- 小学校においては、次期学習指導要領の趣旨を踏まえた中学年向けの外国語活動の教材や高学年向けの教科書を作成する際に参考となるよう、平成28年度中に、平成26・27年度に開発した小学校中学年・高学年向けの補助教材の検証を行う必要がある。また、その検証結果を生かして、中学年の外国語活動の導入や高学年での教科化に対応した教材を平成29年度にかけて開発し、平成30年度には先行実施を行う小学校で活用できるよう作成・配布する必要がある。
- 中・高等学校においては、教科書・教材の課題として、説明・発表・討論等を通じて「思考力・判断力・表現力等」を育成するような言語活動の展開が十分に意識されていないと思われるものも見られる。そのため、どのような力を身に付けるべきであるかということを念頭におきつつ、学習指導要領における指標形式の目標設定などを踏まえた教材とする必要がある。また、言語活動の比重が低い現状から、学習指導要領の内容の実現のために言語活動の改善・充実に資する生徒が発信したいと思える題材とする視点が必要である。

(指導体制、教員養成・研修等)

- 外国語教育に関する教員養成、教員研修及び教材開発に関する条件整備、小学校の中・高学年それぞれの課題に応じた指導体制の整備が不可欠である。
- 小学校においては、校長がリーダーシップを発揮し、学校全体の取組方針を明確にした上で、全教員の共通理解を図りながら、中核教員を中心とした校内の英語教育に係る指導体制の強化に取り組むことが重要である。また、①効果的な教材開発とともに、②必要な指導者の確保を含め、地域の実情に応じた柔軟かつ効果的な指導を行う体制づくりが不可欠である。
- 小・中・高等学校の一貫した外国語教育のP D C Aサイクル¹⁵⁵を通じて、「英語教育推進リーダー」や英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高等学校の連携による研修や、教育委員会と大学・外部専門機関との連携による研修などを実施するとともに、各学校を訪問し、指導計画の作成や学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。
- 小・中・高等学校のコア・カリキュラム開発・普及による教職課程の改善・充実、高学年の教科化に向けて小学校の現職教員が外国語の指導に関する専門性を高めることができるよう、小・中学校の学びの円滑な接続を図るために必要な内容を加えた認定講習等の開設支援及び外部人材の活用支援等により、専門性を一層重視した指導体制を構築する。
- 児童生徒が生きた外国語に触れる機会を一層充実するため、特別免許状の活用も含め、教員や外国語指導助手等としての外部人材の受け入れを一層推進する。併せて、外国語が堪能な地域人材や外国語担当教員の退職者等を非常勤講師として活用するための方策も講じる。

¹⁵⁵ 平成28年度より、都道府県ごとに「英語教育改善プラン」の策定・公表を行い、生徒・教員の英語力等の目標設定・管理の下、必要な研修等を実施し、P D C Aサイクルの構築を推進している。

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

- 外国語の特徴やきまりに関する理解
 - ・音声、語彙・表現、文法の知識
- 言語の働き、役割に関する理解
 - （例）
 - ・コミュニケーションを円滑にする（繰り返す、言い換える 等）
 - ・気持ちを伝える（感謝する、謝る 等）
 - ・情報を伝える（説明する、理由を述べる 等）
 - ・考えや意図を伝える（賛成・反対する、主張する 等）
 - ・相手の行動を促す（依頼する、許可する 等）

- ◆外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力
 - コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力
 - コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力
 - 外国語で聞いたり読んだりしたりして活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力
- ◆考えの形成、整理
 - 目的等に応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力
 - 知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力
 - 形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力

- 外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度
- 自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたりして活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度

※各言語活動に応じた言語の働き

- 外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能
- 外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度

- 外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度

など

など

など

外国語活動・外国語科における教育のイメージ(案)

【高等学校】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、書くこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。
- ②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、社会や世界、他者との関わりの中での幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
 - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【中学校】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的・社会的で具体的な話題について理解したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
 - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校高学年】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しませるとともに、外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
 - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校中学年】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための活動を通して、聞いたり話したりすることなどに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地となる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を用いた体験的な活動通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声や語順等の違い等に気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。
- ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- ③外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
 - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
高等学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> ○母語者同士による多様な話題の長い会話話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 ○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解できるようにする。 ○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。 ○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 ○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。 ○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。 ○議衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んだ、その概要や要点を書きまとめることができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。 ○Eメール、エッセイ、レポートなどをそれぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> ○短い簡単な話題に関する短い会話話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしながら会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしながら会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしながら会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書きまとめることができるようにする。 ○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。
中学校	A2	<ul style="list-style-type: none"> ○短い簡単なメッセージを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 ○身近な話題に関する短い会話話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 ○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や自分に関心した事柄に関する短い簡単なやり取りや自らの意見や感想を表現できるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 ○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。 ○身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。 ○聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> ○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。 ○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事柄を表現するごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 ○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 ○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的を持ってアルファベットの大字と小文字を活字体で書くことができるようにする。 ○例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。
小学校	(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> ○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。 ○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事柄を表現するごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしながら会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的を持ってアルファベットの大字と小文字を活字体で書くことができるようにする。 ○例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表。

小学校3年生外国語活動週1コマ
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)

単元名	時間	<題材> 使用表現	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Hello!	3	<言語・挨拶> Hello. Goodbye. My name is ~. Thank you.	・世界には様々な言語があることに気付くとともに、英語での挨拶の表現に慣れ親しみ、自分の名前を言うて挨拶しようとする。	1-L1
Lesson 2 I'm happy.	2(5)	<ジェスチャー・感情・様子> 感情・様子を表す語 How are you? I'm happy.	・世界には様々なジェスチャーがあることに気付くとともに、感情や状態を表す語や表現に慣れ親しみ、表情やジェスチャーをつけて挨拶とともに、相手に感情や状態を伝えようとする。	1-L2
Lesson 3 How many apples?	4(9)	<数・身の回りの物> 身の回りの物 one ~ ten How many ~?	・言語には、それぞれ特色があることを知るとともに、数の言い方や尋ね方に慣れ親しみ、身の回りのものを数えようとする。	1-L3
Lesson 4 My rainbow	5(14)	<色> 色 I like ~. Do you like ~? Yes. I do. No. I don't.	・英語と日本語の音の違いや、色について様々な見方があることに気付くとともに、好きなものを表わしたり、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、好きなものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L4 1-L5
Lesson 5 絵本教材活用単元: In the Autumn Forest	4(18)	<動物> 動物・体の部位・形状を表す語	・カタカナで表す動物とその英語との音の違いに気付き、まとまりのある英語での話を聞いてその大筋がわかり、動物や体の部位、形状を表す語に慣れ親しみ、まとまりのある英語での物語を聞いてその概要を理解し、自分が選んだ動物を紹介しようとする。	2-L7
Lesson 6 This is my favorite.	4(22)	<外来語・食べ物> 野菜・果物・菓子 What do you like? I like ~.		1-L6
Lesson 7 My name	5(27)	<アルファベット大文字> A ~ Z What do you want? ~, please.	・身の回りにはアルファベットで表されているものが多いことに気付くとともに、アルファベットの読み方や、何が欲しいか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持って欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 8 Welcome to our museum.	4(31)	<身の回りの物> 身の回りの物・形状を表す語 What ~ do you want?	・身の回りの物に関する外来語とその英語から、日本語と英語の音の違いに気付き、どのようなものが欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持ってどのようなものが欲しいかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 9 Who am I?	4(35)	<動物・身の回りの物> 動物・身の回りの物・形状・様子を表す語	・動物や形状・様子を表す語に慣れ親しみ、あるものを説明したり、相手意識を持ってある物について尋ねたり答えたりしようとする。	1-L7

小学校4年生外国語活動週1コマ
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)

単元名	時間	題材・使用表現	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Nice to meet you.	4(4)	<世界の言語・アルファベット小文字> a ~ z Nice to meet you. My name is ~. What's your name?	・様々な言語があることに気付くとともに、アルファベット小文字や初めて出会った人との挨拶の仕方に慣れ親しみ、相手意識を持って挨拶しようとする。	1-L1
Lesson 2 Turn right.	4(8)	<学校・道案内> 教室・学校 Where is ~? Go straight. Turn right/left.	・世界には様々な学校生活があることを知り、学校の中の物や教室名の言い方に慣れ親しみ、相手意識を持って学校を案内しようとする。	2-L5
Lesson 3	4(12)	<昆虫・自然> 自然や位置に関する語句	・自然や位置に関する語句に慣れ親しみ、ジェスチャーや絵等、非言語手段を用いて、聞き手にわかりやすく話したり、わからない語句があっても類推しながら聞き続けたりしようとする。	2-L5
261 Lesson 4 What's this?	5(17)	<文字・アルファベット大小文字> Aa ~ Zz What's this? It's ~.	・世界には様々な文字があることや、身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことに気付くとともに、身の回りの物や、あるものが何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持ってあるものが何かを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L7
Lesson 5 絵本教材活用単元: Good morning!	5(22)	<一日の生活> 動作・気持ちを表す語 I have/study/play ~.	・言葉には深い意味があることに気付き、様々な動作や気持ちを表す表現に慣れ親しみ、まとまりのある話の概要を理解しようとする。	2-L7
Lesson 6 Ten years!	4(26)	<職業> 職業・身の回りの物・感情を表す語 What do you want to be? I want to be ~.	・世界には様々な職業があることに気付き、職業を表す語に慣れ親しみ、就きたい職業について聞いたり言ったりしようとする。	2-L8
Lesson 7 What's this? Quiz	4(30)	<クイズ身の回りの物> 動物 形状を表す語 色・形状 What's this?	・英語と日本語の音声の違いに気付き、身の回りのものの言い方に慣れ親しみ、二往復以上のやりとりをしようとする。	1-L7
Lesson 8 Welcome to my town.	5(35)	<自分の住む地域> 建物・有名な物を表す語 状態・感情を表す語	・形、色、形状等の語いやそれらに関する表現に慣れ親しみ、あるものについて説明しようとする。	1-L7

次期学習指導要領の5・6年生の年間指導計画 イメージ(案) たたき台

短時間学習は…各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と、「繰り返し学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等とを関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。

平成28年6月20日会議後修正

小学校5年生外国語年間70コマ

単元名	時間	題材等	目標例(二重下線部は、HFに設定されていない部分)	注
Lesson 1 Hello, everyone.	5(5)	挨拶・自己紹介 I like/don't like ~. 反応	自分のことについて <u>簡単に紹介できる</u> ようにするとともに、自分のことについて相手を尊重しながら伝え合おうとする。	1-L1 ③
Lesson 2 Do you have "a"?	8(13)	身の回りの英語表記 アルファベット大小文字 Do you have ~?	身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことや、 <u>アルファベットには読み方と書があることに気付き、アルファベットの文字を読んだり、あるものを持ったり答えることができる</u> ようにするとともに、 <u>アルファベットの文字を読んだり書き写したり、あるものを持ったり</u> するか尋ねたり答えたりしようとする。	2-L1 ④
Lesson 3 When is your favorite day?	8(21)	月日・季節 When is ~? Why?	世界には様々な行事があることに気付き、 <u>日程を尋ねたり答えたりすることができる</u> ようにするとともに、 <u>自分の大切な日について理由を含めて伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写したりしようとする</u> 。	2-L2 ④
Lesson 4 This is ME!	8(29)	スポーツ・楽器 身の回りのもの・動作 I can ~. Can you ~?	人それぞれであることに気付き、 <u>物語のあらすじを聞き取ったり、できることを尋ねたり答えたりすることができる</u> ようにするとともに、 <u>自分のできることやできないことを伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写そうとしたりする</u> 。	2-L3 ④
Lesson 5 Turn right.	7(36)	建物 道案内 Where is ~?	世界の町の様子から日本との相違点に気付き、 <u>道を尋ねたり、道案内したりできる</u> ようにするとともに、 <u>相手にわかるように道案内したり、丁寧にアルファベットの文字を書き写したりしようとする</u> 。	2-L4 ④
Lesson 6 This is our town!	8(44)	自然 食べ物 特産物等 This is ~.	自分たちの町の様子から、世界との共通点に気付き、 <u>自分たちの住む町について伝え合うことができる</u> ようにするとともに、 <u>自分たちの住む町のお薦めを紹介しようとして、丁寧にアルファベットの文字を書き写したりしようとする</u> 。	新規 ⑧
Lesson 7 My school schedule	8(52)	教科名 曜日 身の回りのもの I study ~ on Monday.	世界の同年代の子供の学校生活から自分たちとの相違点や共通点、 <u>単語はアルファベットの文字がまとまってできていることに気付き、学校生活について説明し合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書いたりできる</u> ようにするとともに、 <u>お気に入りの時間を入れた時間割を伝え合おうとする</u> 。	1-L8 ③
Lesson 8 Healthy menu	8(60)	食べ物 食習慣 What would you like?	世界には様々な食生活があることに気付き、 <u>丁寧に欲しい物を尋ね、答えたり、丁寧にアルファベットの文字を書き写すことができる</u> ようにするとともに、 <u>健康に良い食事について伝え合おうとする</u> 。	1-L9 ④
Lesson 9 We are good friends.	10(70)	世界の童話 日本の童話 Let's ~.	世界には子供たちに様々な願いを込めて書かれた童話等があることや、 <u>アルファベットの文字がまとまって単語になることに気付き、まとまった英語の物語を聞いて、内容がわかり、場面に合ったセリフを言ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写すことができる</u> ようにするとともに、 <u>英語で物語の内容を伝え合おうとする</u> 。	2-L7 ④

【短時間学習の例・イメージ】

例えば、Lesson 3
自分の大切な日について

○季節・月日などの語彙や日程を尋ねたり答えたりする表現を使うことができる。

主な目標と活動例

- ・「チャンツ」を通して、季節・月日などの単語に慣れる。
- ・「ステレオゲーム」を通して、月日などの単語や日程の尋ね方を使えるようにする。
- ・補助教材ワークシートなどを活用してアルファベットの文字を丁寧に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をするこも考えられる。

小学校6年生外国語年間70コマ

【短時間学習の例・イメージ】

例えば、Lesson 6
学校行事について

主な目標と活動例

○思い出の学校行事について自分の考えを表現するとともに、思い出の学校行事名を正確に書き写すことができる。

・「学校行事かるた取りゲーム」を通して、学校行事を表す単語に慣れる。

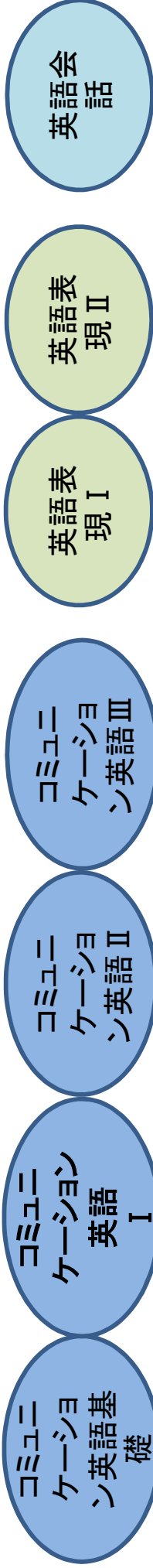
・「チャンツ」を通して、行事の言い方を使うようにする。

・「学校行事名の文字をなぞる」活動を通して文字を正確に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をすることも考えられる。

単元名	時間	題材	目標例	単元目標・クラス目標
Lesson 1 Hello, nice to meet you.	5(5)	挨拶 自己紹介 I'm ~.	・世界には様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、 <u>簡単なやりとりをして自分について伝え合ったり、自分の名前を正確に書いたりすることができるようにする</u> とともに、自分について相手にわかるように伝え合おうとする。	1-1L1 ③
Lesson 2 This is our school.	8(13)	教室名 身の回りの物 形状・気持ちを表す語 I like ~.	・世界の子供たちの生活から自分たちとの共通点や相違点に気付くとともに、 <u>自分の学校について簡単に説明したり、学校名を正確に書いたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分たちの学校について自分の考えを伝え合おうとする</u> 。	2-1L4 ④
Lesson 3 Let's go to Italy.	8(21)	世界の国々 生活 I want to go to ~.	・世界の国々の様子から日本との共通点や相違点に気付くことができ、 <u>行ってみたい国についてその理由とともに簡単に説明したり、国名を正確に書き写したりできるようにする</u> とともに、 <u>お薦めの国について伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	2-1L5 ④
Lesson 4 Welcome to our country.	8(29)	日本の特徴 ~ is ~.	・日本の様子から世界の国々との共通点や相違点に気付く、 <u>日本について伝えることができるようにしたり、推測して読んだりしようとする</u> 。	新規 ⑧
Lesson 5 What time do you get up?	8(37)	一日の生活 時刻 I get up at 7:00.	・世界の人は様々な生活の中で精一杯生活を営んでいることや、時差があること、 <u>英語と日本との表記の仕方の違いに気付く、自分の一日の生活について伝え合うことができるようにする</u> とともに、 <u>自分の大切にしている時間について伝え合い、単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする</u> 。	2-1L6 ③
Lesson 6 A letter to	8(45)	動物 ~ is chasing ~.	・世界の様々な課題や、 <u>英語の語順に気付く、まとまった内容の語を聞いて理解し、自分のことができるように伝え合い、単語を正確に書き写したりできる</u> ようにするとともに、 <u>世界の様々な課題に対して自分ができることを伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	2-L3・L7 ⑧
Lesson 7 My favorite event	8(53)	学校生活 My favorite event is ~.	・世界の学校生活の様子から日本との相違点や共通点に気付く、 <u>6年間の小学校生活について自分の考えを伝え合ったり、単語を正確に書き写したりすることができるようにする</u> とともに、 <u>思い出に残る行事についてその理由を含めて伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	新規 ⑧
Lesson 8 What do you want to be?	8(61)	職業 気持ちを表す語 I want to be a teacher.	・世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることに気付く、 <u>つきたい職業について伝え合ったり、単語を正確に書き写したりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分の将来について伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	2-1L7 ④
Lesson 9 Junior High School Life	9(70)	中学校生活 I want to enjoy ~.	・中学校生活についてのまとまった語を理解し、 <u>自分の考えを表現したり、単語を正確に書き写したりできるようにする</u> とともに、 <u>中学校生活の期待について簡単なスピーチをしたり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	新規 ⑧

外国語
現行科目



課題

- ・生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
- ・英語の学習意欲に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

資質・能力等
育成を目指す

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合型
(必修科目を含む)の科目を核とする

発信能力の育成をさらに強化する

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に育成（受信・発信のバランス）
- ・明確な目標（英語を用いて何ができるようになるか）を達成するための構成・内容を
- ・複数の力を統合させた言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着（高等学校への橋渡し）を含む。

学習指導要領
に掲げられる
資質・能力を確
実に育成する
ための指標形
式の目標を段
階的に設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）

- ・「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し
⇒ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）、ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ（仮称）、エッセー・ライティングⅠ・Ⅱ（仮称）

改訂の方向性（案）

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

Ⅰ→Ⅲへ内容の高度化・話題の多様化

外国語教育の抜本的強化のイメージ

参考資料

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基礎を確実に育成

高校卒業レベルで
4000語～5000語程度

高校卒業レベル
で3000語

高校で
1800～
2500語
程度

中学校
で1600
～1800
語程度

小学校
で600～
700語
程度

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表。

高等学校基礎学力
テスト (仮称)

全国学力・学習状況調査

改善のための
PDCA
サイクル

改善のための
PDCA
サイクル

【高等学校】

且目標例：例えば、ある程度の長さの新聞記事を読読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする。

- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、幅広い話題について情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う。
- 授業を外国語で行うことを基本とするとともに、
 - ①「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に扱う言語活動
 - ②特に、課題がある「話すこと」「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実 (発表、討論、議論、交渉等)。

年間140単位時間

【中学校】

且目標例：例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする。

- 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を外国語で行うことを基本とする。
- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

年間70単位時間

【小学校】

且目標例：例えば、馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする。

- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含めた、コミュニケーション能力の基礎を養う。
- 学級担任が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用。

教科として系統的に学ぶため、短時間学習や、45分に15分を加えた60分授業の設定等の柔軟な時間割編成を可能とする

年間35単位時間

【小学校中学年】

- 外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることを中心にしたコミュニケーション能力の素地を養う。
- 主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導。

現状

【高等学校】

- 目標：コミュニケーション能力を養う
- 授業は外国語で行うことが基本

国の目標 (英検準2～2級程度等50%)
→現状32%
・生徒の学習意欲、「書く」「話す」に課題
・言語活動が十分でない

【中学校】

- 教科型を通じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的育成
- 目標：コミュニケーション能力の基礎を養う
- 前回改訂で週3⇒週4に増

・国の目標 (英検3級程度等50%) →現状35%
・言語活動が十分でない

年間140単位時間 (週4コマ程度)

活動型

- 目標：「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
- 学級担任を中心とした指導

外国語活動が成果を上げ、児童の「読む」「書く」も含めた系統的な学習への知的欲求が高まっている状況

年間35単位時間 (週1コマ程度)

CEFR

B2

B1

A2

265

A1

外国語教育における「見方や考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ案)

参考資料

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などに伝え合うコミュニケーション能力を育成

資質・能力の例

小学校(中学年)

簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力

小学校(高学年)

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力

中学校

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

高等学校

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

指標形式の目標(「話すこと」の例)

小学校(中学年)

(例)
自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとするようになる。

小学校(高学年)

(例)
身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。

中学校

(例)
身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようになる。

高等学校

(例)
身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようになる。

【見方・考え方】

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

【学習過程】

- ① 目的の設定・理解
- ② 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見直し
- ③ 目的実現のための言語活動(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)
- ④ まとめと振り返り

次の活動へ

※詳細は次ページ参照

「見方や考え方」の成長・発展

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力等の育成

情意・態度の育成

- ・対話的な学び
- ・深い学び
- ・主体的な学びへ

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

目的の設定・理解

※必ずしも一方通行の流れではない
 目的表現のための言語活動 (「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)

言語・内容の画面におけるままとめと振り返り

資質・能力の例について
 ○ 簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

① 【目的の設定・理解例】
 小学校 (中学年)
 簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。

③ 【目標表現のための活動例】
 使用表現について理解したり、練習したりする活動・お互いの考えや気持ちを伝え合う活動
 【言語の使用場面の例】
 ・ 特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内
 ・ 児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び
 【コミュニケーションの動きの例】
 ・ 相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④ ・内容面でのままとめと振り返り(得られた情報についての感想やコミュニケーションを体験しての感想など)

○ 馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活等について、友達に質問したり、質問に答えたりするコミュニケーション力

① 【目的の設定・理解例】
 小学校 (高学年)
 馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。

③ 【目標表現のための活動例】
 言語材料について理解したり練習したりする活動
 ・ 互いの考えや気持ちを伝え合う活動
 ・ 互いの音声の違いやそれの特徴や語順に気付いたりする活動
 【言語の使用場面の例】
 ・ 特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内
 ・ 児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び
 【コミュニケーションの動きの例】
 ・ 相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④ ・言語面でのままとめと振り返り(活用した言語表現等について含む)
 ・ 内容面でのままとめと振り返り(得られた情報やそれについての考えやコミュニケーションを体験しての感想など)

○ 具体的に身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、お互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力

① 【目的の設定・理解例】
 中学校
 具体的に身近な話題の概要・要点を正確に理解し、考えや気持ち等を適切に伝えたり、簡単な情報交換をしたりできる。

③ 【目標表現のための活動例】
 言語材料について理解したり練習したりする活動
 ・ 互いの考えや気持ちを伝え合う活動
 ・ 具体的な場面に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする
 ※ 小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面や文脈で活用
 【言語の使用場面の例】
 ・ 特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話
 ・ 生徒の身近な暮らしに関わる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事
 【言語の動きの例】
 ・ コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える相手の行動を促す

④ ・言語面でのままとめと振り返り(話しと伝えたことをより正確に書くなど)
 ・ 内容面でのままとめと振り返り(受信したことや発信したことの整理など)

○ 日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力

① 【目的の設定・理解例】
 高等学校
 日常生活や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を的確に理解し、情報や考えなどを適切に伝えることができる。

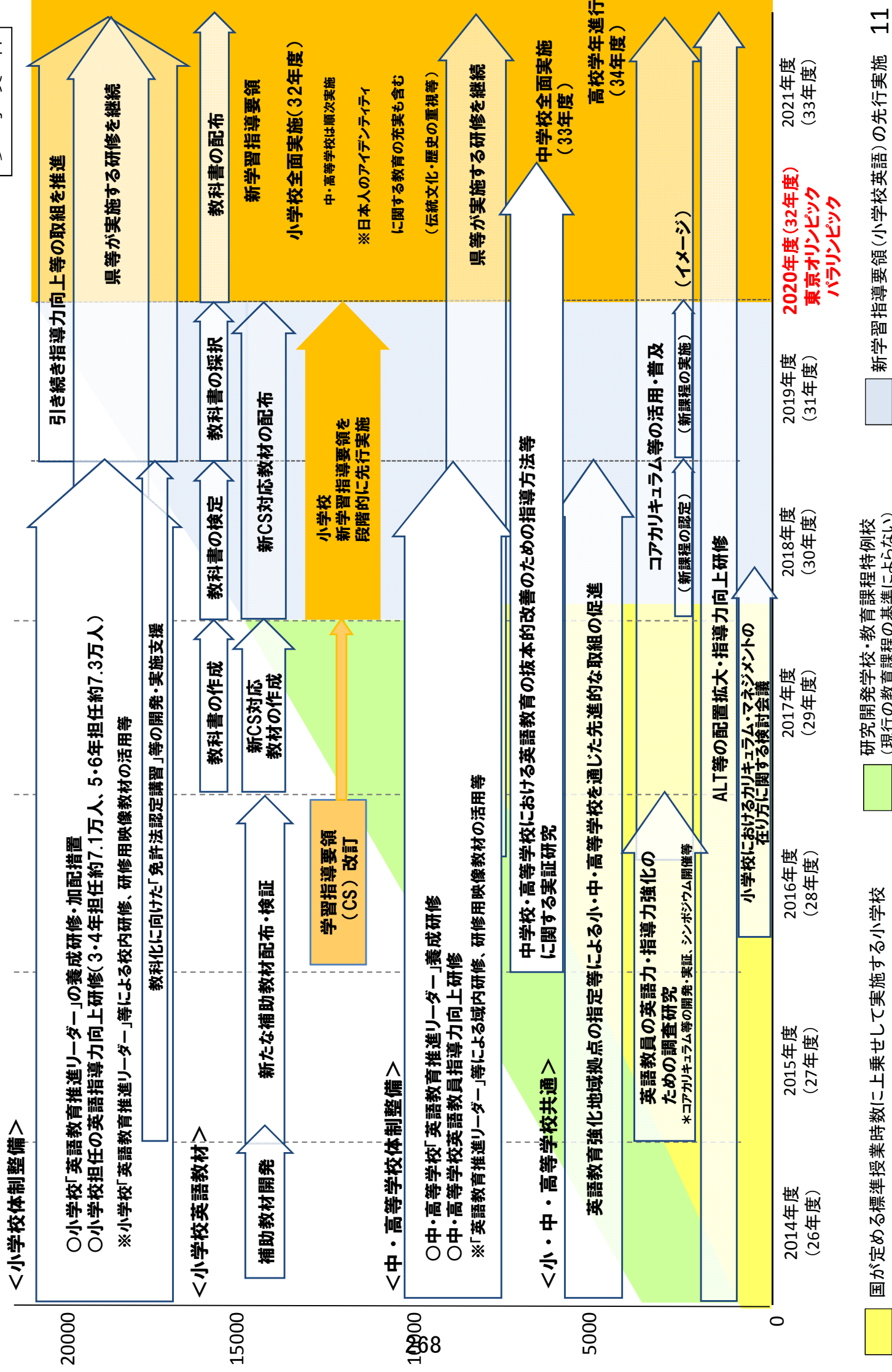
③ 【目標表現のための活動例】
 幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動
 ・ 幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動
 【コミュニケーション能力の設定】
 ・ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の基礎的な能力 (必修修科目)
 ⇒ 的確に理解し、適切に伝え合う能力 (必修修科目 + 選択科目)
 ・ 英語話者が理解できる程度の英語 (必修修科目)
 ⇒ 英語話者が理解できる程度の英語 + ある程度の流暢さ (必修修科目 + 選択科目)
 【話題の設定】
 ・ 身近な話題及び日常的話題や関心のある分野 (必修修科目)
 ⇒ 時事的話題や社会問題など (必修修科目 + 選択科目)
 【情報や考えなどの発表・やりとりに関する言語活動の設定】
 ・ (発表) スピーチ、プレゼンテーション等
 ・ (やり取り) ディベート、ディスカッション等
 ※ 小・中学校で扱った語や表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる場面や文脈で活用できるようにするなど、スバイラルに学習する
 ※ 具体的な言語の使用場面に即した適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする

④ ・言語面でのままとめと振り返り
 【例】流暢さを重視したスピーキング活動の後で、正確さをより重視してライティング活動を行うことによる言語の質的な高まり
 ・ 内容面でのままとめと振り返り
 【例】得られた情報や考えなどを整理することによる思考の深化

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)

(小学校数)

参考資料



国が定める標準授業時数に上乗せして実施する小学校

研究開発学校・教育課程特例校 (現行の教育課程の基準によらない)

新学習指導要領(小学校英語)の先行実施

(13) 情報

① 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた情報科の目標の在り方

i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 近年、情報技術は急激な進展を遂げ、社会生活や日常生活に浸透するなど、子供たちを取り巻く環境は劇的に変化している。今後、人々のあらゆる活動において、そうした機器やサービス、情報を適切に選択・活用していくことがもはや不可欠な社会が到来しつつある。それとともに、今後の高度情報社会を支えるIT人材の裾野を広げていくことの重要性が、各種政府方針等により指摘されている。そうした中、情報科は高等学校における情報活用能力育成の中核となってきたが、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではないのではないかと、情報やコンピュータに興味・関心を有する生徒の学習意欲に必ずしも応えられていないのではないかとといった課題が指摘されている。
- こうしたことを踏まえ、小・中・高等学校を通じて、情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる力や情報モラル等、情報活用能力を育む学習を一層充実するとともに、高等学校情報科については、生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが一層重要となってきている。

ii) 課題を踏まえた情報科の目標の在り方

- 情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核として、小・中学校段階からの問題発見・解決や情報活用の経験の上に、情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な理解や思考力等を育み、ひいては、生涯にわたって情報技術を活用し現実の問題を発見し解決していくことができる力を育む教科と位置付けられる。そこで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理された小・中・高等学校の各教科等の学習を通じて全ての生徒に育成を目指す情報に関わる資質・能力を踏まえ、情報科において育成を目指す資質・能力を整理し（別添14-1を参照）、さらに、これを踏まえて情報科の教科目標を示すことが必要である。（小・中・高等学校を通じた情報教育と高等学校情報科の位置付けのイメージについて、別添14-2を参照）。
- 情報活用能力については従前から情報教育の目標の3観点を示され、主として情報活用能力を育むための指導内容や学習活動を具体的にイメージしやすくし指導を充実させることに寄与してきた。今後、「三つの柱」による資質・能力の視点を踏まえることにより、育成を目指す資質・能力とも関わらせながら具体的な指導内容や学習活動が一層イメージしやすくなるものと考えられる。

iii) 情報科における「見方・考え方」

- この際、情報科は、情報と情報技術に関する理解と技能とを基盤として、問題を発見・解決する能力や態度を育むことを目的としてきており、いわば情報技術の活用による問題の発見・解決の過程や手法そのものをも学ぶ教科であるということが情報科の特徴であり、情報科における「見方・考え方」とは、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用により、新たな情報に再構成すること。（※情報技術の活用とは、プログラミングやモデル化・シミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等。）」であると整理した。
- なお、情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核であるから、カリキュラム・マネジメントを通じた、中学校の関連する教科等との縦の連携、高等学校の他教科等との横の連携も極めて重要である。

② 具体的な改善事項

i) 教育課程の示し方の改善

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 情報科の学習は、社会、産業、生活、自然等の種々の事象の中から問題を発見し、プログラムを作成・実行したりシミュレーションを実行したりするなど、情報技術を活用して問題の解決に向けた探究を行うという過程を通して展開される。実際の学習過程には多様なものがあると考えられるが、一例としては、次のようなプロセスが考えられる。（別添14-3を参照）。
 - ①社会、産業、生活、自然等の事象の中からの問題の発見（モデル化や統計的手法等を活用）
 - ②情報の収集・分析による問題の明確化、解決の方向性の決定
 - ③合理的判断に基づく解決方法の選択、手順の策定や基本設計
 - ④情報技術の適用・実行
 - ⑤得られた結果を社会、産業、生活、自然等の問題に適用して有効に機能するか等についての検討
- （これらのプロセスに並行して、情報や情報技術等に関する知識の習得を行う。）

イ 指導内容の示し方の改善

- 情報科においては、学習過程は上で述べたように多様なものが考えられるが、資質・能力を明確に示すことによって、具体的にどのような指導を行えばよいのかがイメージしやすくなるものと考えられることから、教育内容については、情報科で育む資質・能力を、情報技術と情報を扱う方法にしたがって整理した上で、それぞれの教育内容を更に資質・能力の整理に沿って示していくことが適当である。

ii) 教育内容の改善・充実

ア 科目構成の見直し

- 情報科の科目構成については、現行の「社会と情報」及び「情報の科学」の2科目からの選択必修を改め、問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を全ての生徒に育む共通必修科目としての「情報Ⅰ（仮称）」を設けるとともに、「情報Ⅰ（仮称）」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力や情報コンテンツを創造する力を育む選択科目としての「情報Ⅱ（仮称）」を設けることが適当である。（別添14-4を参照）

イ 教育内容の見直し

- 情報科については、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むとともに、情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための科学的な考え方等を育むことが求められている。そのため、具体的には、コンピュータについての本質的な理解に資する学習活動としてのプログラミングや、より科学的な理解に基づく情報セキュリティに関する学習活動などを充実する必要がある。また、統計的な手法の活用も含め、情報技術を用いた問題発見・解決の手法や過程に関する学習を充実する必要がある。
- これを踏まえ、「情報Ⅰ（仮称）」においては、プログラミング及びモデル化とシミュレーション、ネットワーク（関連して情報セキュリティを扱う）とデータベースの基礎といった基本的な情報技術と情報を扱う方法とを扱うとともに、情報コンテンツの制作・発信の基礎となる情報デザインを扱い、さらに、この科目の導入として、情報モラルを身に付けさせ情報社会と人間との関わりについて考えさせることとして、内容を構成することが適当である。
- また、「情報Ⅱ（仮称）」においては、情報システム、ビッグデータやより多様な情報コンテンツを扱うとともに、情報技術の発展の経緯と情報社会の進展との関わり、さらにAIやIoT等の技術と今日あるいは将来の社会との関わりについても考えさせることとして、内容を構成することが適当である。
- なお、プログラミングに関しては、中学校技術・家庭科（技術分野）においても充実させることとしており、情報科の内容の検討に当たっては、学習内容の適切な接続・連携により学習に広がりや深まりが生まれるよう留意する必要がある。さらに、小学校段階におけるプログラミングの体験を通じて「プログラミング的思考」を育むことや、学校外におけるプログラミングに関する学習機会の充実に向けて、種々の検討や、企業、NPOにおける取組等がなされており、これらの動向も考慮して検討する必要がある。

iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 情報科における「主体的な学び」とは、見通しをもって試行錯誤することを通して自らの情報活用を振り返り、評価・改善して、次の問題解決に取り組むことや、生徒に達

成感を味わわせ学習に取り組む意欲を高めたり、個々の興味・関心や能力・適性に応じてより進んだ課題に取り組んだりすることなどであると考えられる。

- 情報科における「対話的な学び」とは、生徒が協働して問題の発見・解決に取り組んだり、互いに評価し合ったりして、情報技術のより効果的な活用を志向し探究したり、産業の現場など実社会の人々に関わるなどして現実の問題解決に情報技術を活用することの有効性を、実感をもって理解したりすることなどであると考えられる。
- 情報科における「深い学び」とは、具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活においてそうした問題の発見・解決を行っていることを認識し、その過程や方法を意識して考えるとともに、その過程における情報技術の適切かつ効果的な活用を探究していく中で「見方・考え方」を働かせ成長させること、それとともに、情報技術を活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、情報や情報技術等に関する概念化された知識、問題の発見・解決に情報技術を活用する力や情報社会との適切な関わりについて考え主体的に参画しようとする態度などといった資質・能力を獲得していくことであると考えられる。

イ 教材や教育環境の充実

- 情報科の教材（教科書を含む。）については、いたずらに細かなあるいは高度な知識を身に付けることを目指すのではなく、生徒が問題の発見・解決に向けて情報技術を積極的に活用し主体的・協働的に学習を進めることができるものが適当である。その上で、生徒の興味・関心等に応じて、より進んだ学習も含め、主体的に学習を深めていくこともできるよう配慮されたものであることが望まれる。また、プログラムの制作・実行環境等については、情報科の趣旨を踏まえた授業の実施に適したアプリケーション等の開発・提供が必要であり、国や教育委員会と民間等との連携によりそれらの開発・提供が促進される必要がある。さらに、民間独自の良質な教材や学校外の教育プログラムなどとの連携等を促していくことも必要である。
- 情報科担当教員について、各都道府県教育委員会等においては、情報科免許状を有する者の計画的な採用・配置や現職教員の情報科免許状保有の促進等により、免許外教科担任や臨時免許状による担任の解消に務める必要がある。また、情報科の指導内容・方法に関する研修の充実による担当教員の専門性向上も急務であり、国においても各都道府県教育委員会等における研修の充実に資する支援策を講じる必要がある。
- 情報科における学習を充実していく上では、教育用コンピュータだけでなく、安全で高速にインターネット接続できる大容量のネットワーク環境等、学習活動の充実に必要なICT環境全体の整備を進めることが不可欠である。なお、ネットワークのセキュリティに関しては、不正アクセス等に対する十分な対策を講じると同時に、有害情報対策等がかえって必要な学習活動を展開する上での過剰な制約とならないようきめ細かな設定等に留意する必要がある。

情報科において育成を目指す資質・能力の整理（案）

<p>知識・技能</p>	<p>思考力・判断力・表現力等</p>	<p>学びに向かう力・人間性等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決するための方法についての理解 ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解 ・情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉える力 ・問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力 <ul style="list-style-type: none"> - 必要な情報の収集・判断・表現・処理・創造に情報技術を活用する力 - プログラミングやコミュニケーションを効果的に実行する力 - 情報技術を用いたコミュニケーションを適切に実行する力 ・複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を多面的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする態度 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度 ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度

（参考）高等学校卒業までに全ての生徒に育成を目指す情報に関わる資質・能力 ※総則・評価特別部会第4回（平成28年1月18日）資料における整理

<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（思考や創造等に活用される基礎的な情報としての）教科等の学習を通じて身に付ける知識等 ・情報を活用して問題を発見・解決したり考えを形成したりする過程や方法についての理解 ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段（コンピュータなど）の特性についての理解とその操作に関する技能 ・アナログ情報とデジタル情報の違い（Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い）など、情報の特性の理解 ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解 ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解 ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解 	<p>思考力・判断力・表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を活用して問題を発見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考えの形成や人間関係の形成等を行ったりする能力 - 目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力 - 情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力 - 相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考えを伝え合い発展させたりする能力 ・問題の発見・解決や考えの形成等の過程において情報手段を活用する能力 	<p>学びに向かう力・人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を多面的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする情意や態度等 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする情意や態度等 ・情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会（情報の果たす役割が一層重要になっていく社会）に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していこうとする情意や態度等
--	---	--

<p>高等学校卒業までに全ての生徒に育成を目指す情報に関わる資質・能力※</p>	<p>知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(思考や創造等に活用される基礎的な情報としての)教科等の学習を通して身に付ける知識等 ・情報を利用して問題を見・解決したり考えを形成したりする過程や方法についての理解 ・問題の見・解決等の過程において活用される情報手段(コンピュータなど)の特性についての理解とその操作に関する技能 ・アナログ情報とデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)など、情報の特性の理解 ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解 ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解 ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解
<p>274 思考力・判断力・表現力等 (知っていることと、できることをどう使うか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を利用して問題を見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考えの形成や人間関係の形成等を行ったりする能力 ・目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力 ・情報を活用して問題を見・解決を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を見出す等の能力 ・相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考えを伝え合い発展させたりする能力など ・問題の見・解決や考えの形成等の過程において情報手段を活用する能力
<p>学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を多面的・多角的に吟味しその価値を見極めていることとする情意や態度等 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする情意や態度等 ・情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会(情報の果たす役割が一層重要になっていく社会)に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していくこととする情意や態度等

「情報科」

- ◎情報的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の見・解決を行う学習活動を通じて、問題の見・解決に向けて情報と情報技術を活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを旨とする
- ①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人間との関わりについての理解を深めるようにする
- ②問題の見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う
- ③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う

【高等学校】(各教科等)

◎情報社会への主体的な参画に向けて、問題を見・解決したり自らの考えを形成したりする過程や、情報手段等についての知識と経験を、科学的な知として体系化していくようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を高等学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

(技術・家庭科「情報に関する技術」)
計測・制御やコンテンツに関するプログラミングなど、デジタル情報の活用と情報技術を中心的に扱う

【中学校】(各教科等)

◎情報を効果的に活用して問題を見・解決したり、自らの考えを形成したりする経験や、その過程で情報手段を活用する経験を重ねつつ、抽象的な分析等も行えるようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を中学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【小学校】(各教科等)

◎様々な問題の見・解決の学習を経験しながら、そこに情報や情報手段が活用されていることや、身近な生活と社会の情報化との関係等を学び、情報や情報手段によさや課題があることに気付くとともに、情報手段の基本的な操作ができるようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を小学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【幼稚園】
幼児教育において培われる基礎(言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

※総則・評価特別部会第4回(平成28年1月18日)資料における整理

情報科の学習過程のイメージ(案)

問題発見・解決の
プロセス



社会等の事象の
中からの問題の
発見

- 既知の手法の適用
又は新たな手法の
習得・活用
- ・モデル化
- ・統計的手法 等

情報の収集・分
析による問題の
明確化

解決の方向性の
決定

情報や情報技術等に関する知識の習得

合理的判断に基
づく解決方法の
選択

手順の策定や基
本設計

情報技術の適
用・実行

- ・プログラムの作成・
実行
- ・シミュレーションの
実行
- ・情報デザインの適
用 等

評価・改善

社会等の問題に適
用して有効に機能す
るか等についての検
討

次の問題解決
又は現実の問題
への適用

※必ずしも一方通行の
流れではない
※「社会等」＝社会、産
業、生活、自然等

社会等の問題の把握

抽象化された「情報」の「情報技術」による取扱い

社会等の問題への適用

ICTの効果的な活
用場面と活用方法

インターネット等を活
用した調査活動

協働での意見の整理

プログラムや作品の(協働)制作、
シミュレーション、データの分析

結果の統計的分析

記録の活用
(自らの学びの振り返り)

知識・技能

思考・判断・
表現

主体的に学習に
取り組む態度

資質・能力の育成と主な評価場面

主に個別の知識の習得

主に活用を通じた知識の概念化、
情報技術を活用する技能の習得

事象を情報とその結び付きの視点から捉える力

問題の解決に向けて情報技術を適切かつ効果
的に活用する力

見通しを持って問題を解決しようとする意欲

学んだことを生かし情
報社会に参画・寄与し
ようとする態度

留意すべき点

- ✓ 各プロセス及び各プロセスとICT活用例や評価場面との対応は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ✓ 学習活動のつながりと学びの広がり(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること

「情報Ⅰ (仮称)」(情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育成する共通必修科目)

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

(項目の構成案)

(1) 情報社会の問題解決	中学校までに経験した問題解決の手法や情報モラルなどを振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用して、情報社会への参画について考える。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用する力、事象をモデル化して問題を発見したりコミュニケーションを通してモデルを評価したりする力を育む。
(4) 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。

276

「情報Ⅱ (仮称)」(発展的な内容の選択科目)

「情報Ⅰ (仮称)」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいは情報コンテンツを創造する力を育む科目

(項目の構成案)

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。
(2) コミュニケーションと情報コンテンツ	画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。
○ 課題研究	情報Ⅰ (仮称)及び情報Ⅱ (仮称)の(1)～(4)における学習を総合し深化させ、問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

情報科各科目の項目構成の考え方

項目(1)

- ・情報社会との関わりについて考える
- ・問題の発見・解決に情報技術を活用することの有用性について考える

※項目(2)～(4)の導入として位置付ける

項目(2)～(4)

- ・コンピュータや情報システムの基本的な仕組みと活用に関する内容、コミュニケーションのための情報技術の活用に関する内容、データを活用するための情報技術の活用に関する内容で構成する

①(各項目に応じた)情報、情報技術や問題解決の手法等を理解する

②問題の発見・解決に情報技術を活用するとともに、自らの情報活用を評価・改善する

※②においては、①において習得した知識の概念化を図るほか、問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上、情報社会に参画する態度の育成を図る

※主として②において、情報科における「見方・考え方」を働かせるとともに成長させる

※必ずしも①、②の順に学習するものではなく、「情報科の学習過程のイメージ(案)」に示すように、学びのつながりと広がりを意識して、情報や情報技術等に関する知識の習得と、それらの知識の問題発見・解決への活用を並行して行うことも考えられる